

平成 29 年度都市科学部運営諮問会議  
平成 29 年度にかかる評価結果

【1】都市科学部における学生の受入れ

1. アドミッションポリシーにもとづいて、適切な学生受入が実施され、入学定員と実入学者数との関係が適切でしょうか？

平均評価： 3.5	① まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
--------------	--------------------------------------

コメント：

○グローバルや多様性の視点の必要性は高まるばかりである。留学生の定員数はもう少し増やしてもよいのでは。

○入学定員と実入学者数との関係は適切である。アドミッションポリシーにもとづいて適切な学生受入が行われていることについては、各種授業における学生のレポートから察することができる。

ただし、今後、可能な範囲で各アドミッションポリシーにもとづいて適切な学生受入が実施されていることについての評価指標を定量的なものにすることをご検討頂きたい。

○志願者も増え非常に適切である。さらに多様で優秀な学生が集まるような情報発信に取り組んでほしい。

【2】都市科学部における教育

1. 教育方針とカリキュラムポリシーに照らし、都市科学部の特色が反映された教育が行われているでしょうか？

(1) ①グローバルとローカルの接点としての大都市、②リスク共生、③イノベーション) を重視した教育が行われているでしょうか。

平均評価： 4	① まったく行われていない ②不十分である ③行われている ④非常によく行われている
------------	--------------------------------------------

コメント：

○学生さんたちのレポートを拝見しても、上記の3点が良く意識され、自ら考え学ぶ姿勢が良く形成されているように感じられる。

○グローバルとローカル、リスク共生、そして、イノベーションといった事項についても授業で意識的に教授されていることが、学生のレポートにも現れている。

○非常に幅広い特色ある内容の教育となっている。今後も内容の充実に取り組んでほしい。

(2) 分野横断型の教育が積極的に推進されているでしょうか。

平均評価： 3.5	①まったく推進されていない ②不十分である ③推進されている ④非常によく推進されている
--------------	----------------------------------------------

コメント：

- 大学としても意欲的に取り組まれているとは思いますが、学生さんたちのアンケートにあるように学生どうしのコミュニケーションも図れる形態の授業の拡大が望まれる。
- 分野横断型の教育を行うためのカリキュラムが適切に構築されている。学生のレポートからも、そうしたことに配慮した講義が行われていることを十分に感じる事が出来た。
- 全学で分野横断的に教育を積極的に推進している。

(3) グローバル人材の育成に積極的に取り組んでいるでしょうか。

平均評価： 3	①まったく取り組んでいない ②不十分である ③取り組んでいる ④非常によく取り組んでいる
------------	----------------------------------------------

コメント：

- 学生の中の海外留学は得難い貴重な経験である。希望する学生さんたちがなるべく多く行けるよう大学としてのサポートの充実を求めたい。英語は基本、英語教育にも力を入れていただきたい。
- 学生に対する啓発の取組みをこれまで以上に行い、留学や研修等の機会を積極的に活用する素地を育成していくことが大切であると考えている。
- 毎年10人ずつ留学するなど、学生がグローバルな感性を身につけるよう取り組んでいる。ただし、横浜国大は、全学的にグローバル人材の育成に取り組んでおり、そうした意味では都市科学部として今後のより一層の取り組みに期待したい。
- より多くの学生が海外留学などを経験できるよう支援し、グローバル人材を育ててほしい。

### 【3】その他

1. 教育課程に対応した設備・施設等が十分整備され適切でしょうか？

平均評価： 2.8	①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
--------------	-------------------------------------

コメント：

- フューチャーセッションスペースの実現に期待。
- 限られた予算内での設備・施設の整備に対する取組み・努力は大変であると思う。予算枠の拡大等による更なる整備に期待したい。

○限られた既存の施設を改修し、クラウド的に活用する教育プログラムを考えており、場所に応じた学生の活動が展開できるようにしている点は評価できる。  
○各学科が物理的に分散しているデメリットを解消するよう必要な投資に取り組んでもらいたい。

2. 財務基盤は適切でしょうか、また、管理運営体制（事務組織も含む）が適切に整備されているでしょうか？

平均評価：	①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
<b>2</b>	

コメント：  
○大学本部事務組織とのより一層の連携が必要。  
○運営管理体制については、適切であるとする。予算が厳しい中でやりくりをされているのがみてとれる。運営経費等の面でも、更なる予算上の措置が望まれる。  
○既設の建物等を有効に活用する節約型の学部と感ぜられる。現状の予算で、新たな学部の立ち上げや運営に支障が無いか心配である。  
○大学全体の財政が厳しいことは理解するが、学部長戦略経費など全く不十分と言わざるを得ない。

3. 内部質保証システムに関して体制が整備され、機能しているでしょうか？

平均評価：	①まったく機能していない ②不十分である ③機能している ④非常によく機能している
<b>3</b>	

コメント：  
○学長が指名した学部長を中心とした組織体制を整備しており、適切に機能している。  
○非常に多くのチェック体制を整備しているので、効率的な運営をお願いしたい。

全体を通して、ご意見・ご提言がございましたら、ご記入をお願い致します。

○高校生たちに対して、「都市科学部」で学べることのイメージを、しっかりわかりやすく打ち出していくことが重要。  
○一つの専門は持っていてほしい。その上に横断的なことも把握している学生が望ましい。  
○横浜国立大学の学生さんたちに一般的に言えることであるが、研究内容は素晴らしくてもその表現力については内容に見合っていないケースが多い。大学の授業の中で指導をしていただき、練習を積むことで向上するはず。  
○出口に期待している。文系的素養をもった理系人材、理系的素養をもった文系人材等、ポリシーにあるような人材を多く育成してことは極めて大切であると思う。

そうした意味では、完成年度に評価されることとなると思うので、評価のポイントやタイミングを整理していただけるとよいと思う。

○大学としての「良い素材」は十分に感じられる。情報発信と充実をお願いしたい。

○真面目でいいものを持っているが、うまく伝えられない学生が多いように聞いた。外に出て実践する学生、提言できる学生の育成をさらに推し進めていただきたい。

○都市科学部設置2年目の志願者も昨年度を上回る状況で有り、新設学部として好スタートが切れていると感じられます。

○文理融合教育を特色として、優れた教員スタッフによる充実した教育体制が組織されています。教育内容もグローバルとローカル、リスク共生、そして、イノベーションといったテーマの中で文理融合教育に取り組んでおり、学生たちにもそのことが良く伝わっているようです。その結果、「SAUCE プロジェクト」など学生の自主的な取り組みが醸成できていることは特に評価できます。

○グローバル対応では、全国トップと呼ばれる横浜国大の中で、本学部の今後のグローバル教育への対応が期待されます。

○今回の評価では、新学部としての立ち上げが順調であることを確認させて頂くことが出来ました。これから、完成年度に向けて、大切なことは「卒業生が目指すべき人物像に到達したこと」である（この点、評価の着眼点になる）として、今後も文理融合教育という特色がますます輝きを増すような教育が行われますようよろしくお願い申し上げます。

○新しい学部の立ち上げに取り組む先生方の熱意が伝わってくる初年度の成果だと感じます。学生の反応なども参考に、さらに教育内容の充実に取り組んでいただきたいと思えます。

○横浜市内、神奈川県内の各地に出向いて現場を学ぶ教育をさらに取り入れていただきたい。